

# 《在庫が多く、古い商品が残って、新製品が導入できない》

## 在庫削減

製造業の在庫管理は、事業の運営の中では、決めたことをきめ細かく維持し、小さな数字や事項の記録を着実に継続する、地味で目立たない縁の下の仕事です。ところが最近の事業運営の中で、在庫管理が全く違った観点から注目されることがあります。

企業が成長を続ける中で市場は常に変化し、事業運営は変革を続けます。新製品の開発がその一つです。また、新製品と呼ばなくても、設計変更、デザイン変更、新しいルート開拓、新しい法令規制の注意書きや記載事項の変更など、実際の事業運営では、従来在庫は旧品となり、“新しいもの”に置き換わることが必ずあります。

★在庫が多すぎて、古い商品が残っているので・・・新製品の導入が遅くなる。

- 事業の形態、業種、規模、会社の歴史や取り扱う製品によって異なりますが、在庫過剰があるために、新製品の導入や“新しいもの”への置き換えを遅らせることはないでしょうか。旧品の在庫をはたいてから新製品、というのは、経営を損ない、経営にダメージを与えるリスク！があり、最近の事業運営においても問題を起こす危険な状況の一つです。
- 新製品企画の時から旧品の在庫処理を計画することができる会社の体質とする必要があります。旧品を出荷して完売を見届けてからでもよいか、旧品の在庫を廃棄してでも新製品を導入すべきか、特に法令規制に従った表示事項の変更など、明確な判断基準をもつことが必要です。
- これは在庫管理を越えた経営の問題ですが、いろいろな切り口で身近な視点からチェックリストに質問事項を考えてみますので、その中から役に立つ実戦情報をつかんでください。

次の「**チェックシート**」で、自社の現状を確認してください。

# チェックシート

新製品の導入の他に、設計変更、材料変更、デザイン変更の場合、また新しいルート開拓の場合、さらに新しい法令規制による表示事項の変更などがあります。このような場合、実際の事業運営では、従来在庫は旧品となり、“新しいもの”に置き換わります。

在庫管理能力診断のチェックリストによって、事業運営の問題点をチェックしてください。

No.	質問事項	Yes	No
1	<b>新製品を企画したときに、旧製品の自社内在庫、市場在庫を計画に入れていま すか？</b> 新製品の他に、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更などがありますが、あなたの会社では具体的にはどんな場合がありますか？		
2	<b>旧製品の在庫を廃棄する時期を、新製品導入計画に明確にしていますか？</b> 旧品在庫（含む部品、材料）を廃棄する時期の判断基準は決めていますか？ 新製品導入時期を判断基準にしますか？		
3	<b>在庫の現状を見て、毎日の動き、翌日、来週、来月の見通し予測していますか？</b> 事業運営の中で、在庫情報を経営企画にどのように活用していますか？		
4	<b>経営トップが在庫の動きを見て、企画部門、販売部門、製造部門と合議していま すか？</b> あなたは新製品を企画するときに、企画部門、販売部門、製造部門の会議に在庫責任者を参加させ、その情報を活用しますか？		
5	<b>新製品を企画し導入するために、在庫を削減して在庫場所を確保できますか？</b>		
6	<b>古い商品を見切り処置し廃棄できますか？</b>		
7	<b>同業他社、他業種、自社の過去の事例、経験者から情報を聞き、参考にしま すか？</b>		

# レポート

チェックリストの質問に対する答え（Yes か No）に応じて対応策を示します。

No.	対応策	備考
1	<p><b>新製品を企画したときに、旧製品の自社内在庫、市場在庫を計画に入れていますか？</b></p> <p>注：新製品の他に、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更などがあります。</p> <p><b>Yes</b>：新製品の企画に、旧品の自社内在庫、市場在庫を計画に入れている場合：それにもかかわらず新製品の導入が遅れたのはなぜかが問題です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新製品の企画にはいろいろな要素が複雑に働きます。経営者は、企画部門と、そうなった原因は何か、自社在庫に問題がなかったか、市場在庫には新たな状況の変化がなかったか、企画の中の重点に応じて判断が適切であったか、調整が確実であったか、その他の要因を十分検討します。その検討結果、次の新製品企画の計画に加えます。</li> </ul> <p><b>No</b>：新製品の企画に、旧製品の自社内在庫、市場在庫を計画に入れてないか不十分であった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、企画部門を中心に、新製品、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更などの状況に対応して、適切に、自社内の旧製品・旧部品の在庫削減を計画し、市場在庫については、その削減手段と実施状況をデータで把握するなど、計画し、それを実施します。</li> </ul>	
2	<p><b>旧製品の在庫を廃棄する時期を、新製品導入計画に明確にしていますか？</b></p> <p>新製品の導入、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更などの状況により対応策を決めます。</p> <p><b>Yes</b>：旧製品の在庫廃棄時期を明確にしていた場合：それにもかかわらず新製品の導入が遅れたのはなぜか、が問題です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新製品の企画にはいろいろな要素が複雑に働くので、経営者は、企画部門と、新たな状況の変化がなかったか、新製品導入計画の実施上何か問題はなかったか、確実に実施されていたか、問題を確認し、その検討結果を次の新製品企画の計画に取り入れます。</li> </ul> <p><b>No</b>：旧製品の在庫廃棄時期を明確にしていなかったか又は不十分な場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、企画部門を中心にと、1と同様の見直しを実施します。</li> </ul>	
3	<p><b>在庫の現状を見て、毎日の動き、翌日、来週、来月の見通し予測していますか？</b></p> <p>在庫情報を経営企画に、事業運営の中で毎日活用し、明日の予測に生かします。</p> <p><b>Yes</b>：在庫の現状を見て、毎日の動き、翌日、翌週、翌月の見通し予測をしている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上に述べたように新製品の企画にはいろいろな要素が複雑に働きますので、経営者は、事業に不可欠な的確な予測に、一層努めます。</li> </ul> <p><b>No</b>：在庫を見て明日を予測していないか不十分な場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、協力者を得て事業に不可欠な予測に努めます。</li> </ul>	*

4	<p><b>経営トップが在庫の動きを見て、企画部門、販売部門、製造部門と合議していますか？</b></p>	
	<p>新製品を企画するときに、企画部門、販売部門、製造部門の会議に在庫責任者を参加させ、その情報を活用します。</p> <p><b>Yes</b>：企画、販売、製造部門と合議している場合：それにもかかわらず、新製品の導入が遅れたのは問題です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新製品の企画にはいろいろな要素が複雑に働くので、経営者は、企画部門と、新たな状況の変化がなかったか、新製品導入計画の実施上問題はなかったか、確実に実施されていたか、問題を確認し、原因を絞り込み、その検討結果を次の新製品企画の計画に取り入れます。</li> </ul> <p><b>No</b>：企画、販売、製造部門と合議していないか不十分な場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上に述べたように新製品の企画にはいろいろな要素が複雑に働くので、経営者は、企画部門、販売部門、製造部門が効率よく新製品の企画検討を行える体制を作る必要があります。</li> </ul>	
5	<p><b>新製品を企画し導入するために、在庫を削減して在庫場所を確保できますか？</b></p> <p>新製品、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更など、状況に応じた対応策をとります。</p> <p><b>Yes</b>：旧品在庫を削減し、新製品の在庫場所を確保できる場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、新製品の導入は、計画どおり進めます。</li> </ul> <p><b>No</b>：旧品在庫を削減できず、新製品の在庫場所が確保できなかった場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、企画部門、販売部門、製造部門が、4 に戻って効率よく新製品の企画検討を行える体制を作ることからはじめます。</li> </ul>	
6	<p><b>古い商品を見切り処置し廃棄できますか？</b></p> <p>新製品の導入、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更など、状況により“古い商品”を明確にしてそれに応じて旧製品在庫（部品を含む）を廃棄し、対応策を決めます。</p> <p><b>Yes</b>：古い商品を特定して在庫を見切り処置できる場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、新製品を計画に沿って導入できます。</li> </ul> <p><b>No</b>：古い商品を特定できず見切り処置できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営者は、企画部門、販売部門、製造部門と検討し、新製品導入計画の体制を作り、その中で古い商品を特定することから始めます。</li> </ul>	
7	<p><b>同業他社、他業種、自社の過去の事例、経験者から情報を聞き、参考にしますか？</b></p> <p>新製品の導入、設計変更、材料変更、デザイン変更、また新しいルート開拓、新しい法令規制による表示事項の変更などは、事業運営の重要課題です。在庫管理に関連するこれらの問題は、必ず、同業他社とだけでなく、他業種の状況とベンチマークする必要があります。自社の過去の事例を経験者から聞き取り調査し、現在の経営に生かす努力が必要です。</p> <p><b>Yes、No</b>：同業他社、他業種、自社の過去の事例・情報を活用する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在庫過多が新製品導入の遅らせるのは在庫管理を越えて経営問題です。経営者は、この問題を経営の課題として取り組むことが必要です。</li> </ul>	